

また、「五感で受けとめたい、伝えたい」というサブタイトルには、文字や写真カード、サインなどのいろいろな伝達手段を有効に活用すると共に、音声言語だけでなく、相手の表情やしぐさなどを見落とさないよう、五感すべてを総動員させてかかわっていきたいという思いが込められている。教師は子どもが今何を伝えようとしているのか、という子どもの思いを敏感に感じ取り、受けとめ、そして、「わかったよ」ということを伝え、更に子どもに「わかる」（理解できる）ように伝えていきたいと考えている。

（寺 倉 万 喜）

2. 研究の方法

学部研究を進めるにあたって「わかる」という視点から、授業研究や事例研究などを中心に据えて以下のような手順で研究に取り組んだ。

（1）授業研究

「朝の会」を取り上げ、目標を再確認し、教師の指導方法や支援の仕方、教材・教具の工夫や選定などを行う。

（2）校内の環境整備

教室の表示や掲示物などが子どもたちにとってわかりやすいものなのか、また、必要であるのかを検討し整備を行う。

その子その子に適した活動の手がかりとなるような支援ツール（見てわかるものなど）を考え、作成する。

（3）コミュニケーション支援の事例研究

①子どもの全体像を把握する

- ・子どもの全体像について話し合う
- ・一人一人の子どものかかえる課題について話し合う
- ・コミュニケーションの取り方の特徴を捉える
- ・保護者の願いを聞き、課題を確認する

②子どもの中心的課題を明らかにする

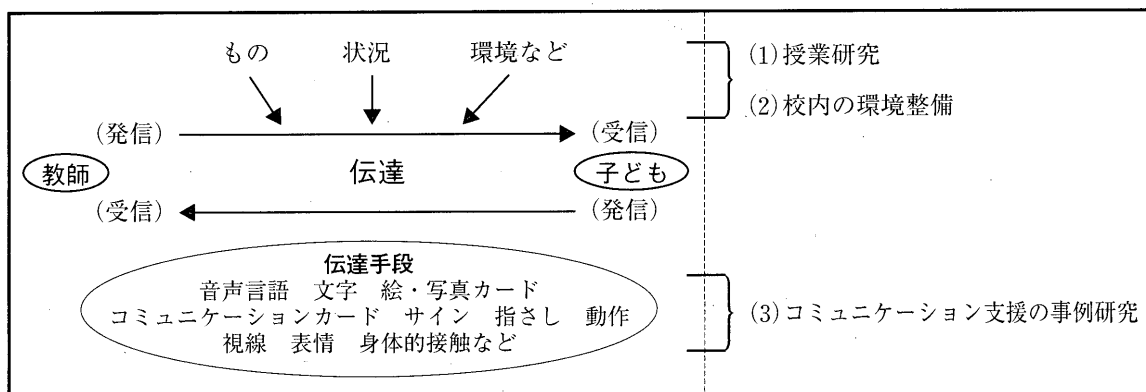
③「わかる」という視点で実践を行う

④実践の評価をする

- ・学習環境やコミュニケーション支援の方法、子どもの変容について話し合い、共通理解する

⑤評価した結果をもとに方向性を導き、再度実践する

- ・子どもから学んだことを整理し、ハード面の整備や支援の最適化を図る



図Ⅱ-1 コミュニケーション支援についての取り組み

(原 田 絹 子)

3. 研究の内容及び取り組み

(1) 授業研究 「わかる」朝の会

朝の会は、各クラスで年間を通じて毎朝行っている活動である。そこで、子どもの「わかる」を大切にしたい授業としてまず初めに各クラスの「朝の会」を取り上げ、学部全体で活動内容や支援の再検討を行った。

方法としては、各クラスで学習指導案を書き、研究授業を参観し合い、授業整理会を行った。各クラスの取り組みで良かった点、改めたらよい点を話し合い、クラスごとに取り入れられる所は取り入れようと確認し合った。小学部全体としては、給食の献立カードの作成をしようということになり、教材作りの作業を行った。

取り組みの内容は以下の通りである。

① 主な目標の再確認

- ・ クラスの友だちや教師と顔を合わせることで、一日の始まりであることを意識する
- ・ 音楽や歌で意欲的で元気な一日を始める
- ・ 一日の活動の内容や流れを知り、見通しをもつ
- ・ 挨拶や返事、起立、礼ができる
- ・ 当番の活動に自主的に取り組む

② 教材の工夫

これらの目標の中で特に「一日の活動内容や流れを知り、見通しをもつ」を達成するために、音声言語や文字だけでなく、写真カードや絵カードなどの視覚的支援を多く用いることとした。具体的には次のようなものである。

- ・ 時間割カードの文字（ひらがな、カタカナ、漢字）に写真や絵や色の手がかりをつける
- ・ 給食の献立は、絵カードや写真カードで提示して目で見てわかりやすいようにする
- ・ カードを選択する場面ではミニホワイトボードを用意し、選択肢のカードを貼り子どもの目の前に提示するなど注目しやすく選び取りやすくする

③ 支援の視点の共通理解

- ・ 視覚刺激をシンプルにするために、黒板まわりや板書を整理し、どこに注目したらよいのかをわかりやすくする
- ・ 選択カードの提示等は、子どもが注視しやすい出し方（活動の流れに沿って教材を見や